

# 事業報告書

(第1期)

自 2022年11月14日

至 2024年3月31日

特定非営利活動法人イエカラ

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

## 2023 年度の事業報告書

2022 年 11 月 14 日から 2024 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人イエカラ

### 1. 事業の成果

#### 1 遊休不動産を適切に管理運用するための事業

##### ● R5 年度国土交通省空き家対策モデル事業

当法人は、さかさま不動産やまなし支局を担当しているが、その活動の中で空き家所有者から多く聞かれる声が「誰でもいいわけじゃない」「何に使われてもいいわけじゃない」という主訴であった。これを受け、「こんな人を使ってほしい」「こんな使い方をしてほしい」という発信ができる情報サイト『偏愛不動産』を構築した。更にこの活動の中で多く聞かれた声は「まだ決められない」「地域（地元）に迷惑をかけたくない」という声だった。これに対応すべく空き家の定期巡回管理代行サービス『アキヤマモリ』を立ち上げた。

今後の展望としては、『アキヤマモリ』を通して、環境や景観の保全を図りつつ、利活用や除却についての提案を行い、所有者はもちろんのこと、周辺地域住民と関わることで、空き家問題を自分事と捉えてもらえるためのコミュニケーションツールとしての確立を目指している。

#### 2 地域活性化を目的とした空き家の改修及び活用事業

##### ● やまなし官民連携空き家活用促進事業

甲府市内にて 2 件の空き家所有者と共に、空き家を活用した事業を展開。本事業は認定事業と補助金事業の 2 部構成となっており、空き家所有者に対し、認定事業者として、補助金申請のサポートやその後の運営についてのサポートを行っている。

甲府市青葉町の物件は地域コミュニティと移住希望者との橋渡しとなる場として事業を展開。地域との交流イベントなどを開催している。この交流には当初想定していなかった効果がみられた。当該物件の隣には 90 代半ばの女性が独りで暮らしている。周辺住民からの事前情報では「足も悪いし耳も聞こえが悪い」とのことであったが、改修工事がはじまると、様子を見に来たり、話しかけてきたりと、徐々に快活になっていく様子が顕著にあった。現在では、毎日お化粧をして外出する様子が見られる。空き家を活用することが結果としてフレイル予防にもつながるといった事例となった。

甲府市内のもう 1 件は、所有者の意向により「困りごと」を抱えた人を短期的に受け入れる施設として活用している。当該物件については秘匿性が高いため詳

細は割愛する。

本事業に取り組んだことにより、山梨県に移住してきたが、東京の実家が空き家になってしまった方に利活用についての相談を承った。当該物件は浅草からほど近い場所にあり、風情のある建物かつ日本情緒にとんだ庭があり、民泊として日本内外からの需要が見込める点から、相続予定者に提案。「自分たちはこの住いとしては使いづらい家が好きではなかったが、改めて価値を見出すことができた」とのことで、現在は家守に管理を任せられた形で民泊として稼働している。

- さかさま不動産やまなし支局

2023年6月30日、山梨県地域福祉活動補助金を活用し、地域交流施設である『まちなか工作室』の開所式と、さかさま不動産やまなし支局の開局イベントを実施した。翌7月1日には山梨県立やまなし地域づくり交流センター主催の異業種交流会 y 2 mix にさかさま不動産運営本部と共に登壇。やりたい想いを応援する社会が地方創生につながるという講演を行った。

本年度は支局として合わせて3回のイベントを実施。さかさま不動産の掲載者や起業セミナーの受講生等が、地域住民に認知してもらうためのプレゼンイベントを開催した。プレゼンターと一般参加者合わせ100名程度の参加があった。

山梨県には「来たりもん」という方言がある。また、かつては共助の仕組みであった「無尽」も今なお文化として根強く残っている。これは、新しく事業を始めたい方や、移住してくる方との境界となっている。この境界は互いを知らないことによって生ずるものであると考察し、イベントを実施している。イベントにより出会ったプレゼンター同士の交流が生まれ、一般参加者は応援したいという機運につながりつつある。継続していくことで、応援する文化を醸成しつつモデルビジネスに対する支援の一環としていきたい。

### 3 ジェンダーを超えた交流を促進する事業

- 講演会の実施

2022年12月27日、甲府市女性活躍等に係る提案事業の補助金を活用し、甲府市役所にて男性経営者2名を講師に講演を開催した。参加者42名。ジェンダー平等がうたわれる時代に、男性経営者がどのように工夫して経営をしているのについて対談形式にて講演を行った。

- パブリックリレーションズ研修の開催

甲府市女性活躍等に係る提案事業の補助金を活用し、講師にPRアワードグランプリを受賞した福田ミキ氏を招き、広報についての視座を培うパブリックリレーションズ研修を実施。PRというと自分中心な発信のようなイメージがあるが、社会との関係性をつくるという役割がある。これは女性が社会進出する中で非常に重要な視座である。本研修は、基礎編と実践編の2回をzoomで開催。参加者10名中4名がメディア取材につながった。

#### 4 廃棄物を資源化するための事業

- 古家具を継承する取組み

山梨市切差で限界集落の再生に取り組んでいる方より、祖母から受け継いだ桐の箆笥を再生できないか、という相談を受け、DIY で洗面台に再生する取組を行った。これは『ジャパン DIY ホームセンターショー2023』にて入選。古家具は素材や佇まいは良いが、そのままでは勝手が悪く捨てられてしまうことが多い。アップサイクルすることで、循環できる取組み事例となった。

- 廃材を使用した想像力を培うワークショップ

2023年12月23日に、子ども向けワークショップの材料として一般的に建築廃材として廃棄されてしまう端材を使用した。形も大きさもバラバラの材料に自由に絵の具で着色し、クリスマスツリーを作るという企画だったが、最終的には街のジオラマのような大作をつくる子どももいた。ワンオペ解消にもつながるといことで、保護者の方からも好評なワークショップとなった。また、子どもを持ってない方がボランティアとして参加。地域高齢者の参加もあり盛況となった。元々は豊かな想像力を培うためのワークショップであったが、地域ぐるみの子育てのきっかけとなるイベントとなった。

#### 5 上記事業に関する情報提供事業

- ホームページ・公式Instagram・公式Facebook・公式LINEの構築を行った。

#### 6 その他目的を達成するために必要な事業

- NPO への理解促進に資する取組

『民主主義・NPO & ソーシャルビジネスにモヤる人が集まる会』と称し、政治学者の岡田憲治氏と、NPO 法の生みの親と言われる松原明氏をゲストスピーカーに迎え2回のイベントを開催。合計で95名の参加者があった。

山梨県ボランティア協会主催の NPO 推進講座に協力し、講師に松原明氏を招き NPO におけるマネジメントについての講演を開催。28名の参加者があった。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
遊休不動産を適切に管理運用するための事業	国土交通省空き家対策モデル事業	(A) 8月～2月 (B) 全国 (C) 10名	(D) 各関係者 (E) 33名	6, 265
地域活性化を目的とした空き家の改修及び活用事業	やまなし創生官民連携空き家活用促進事業	(A) 通年 (B) 山梨県内 (C) 3名	(D) 各関係者 (E) 32名	1, 193
	さかさま不動産	(A) 通年 (B) 山梨県内 (C) 9名	(D) 各関係者 (E) 約100名	
ジェンダーを超えた交流を促進する事業	ワークショップや参加者と地域住民の交流会	(A) 通年 (B) 山梨県内 (C) 4名	(D) 各関係者 (E) のべ60名	423
廃棄物を資源化するための事業	古家具や廃材のアップサイクル事業	(A) 通年 (B) 山梨県内 (C) 4名	(D) 各関係者 (E) 14名	91
上記事業に関する情報提供事業	ホームページによる情報発信事業	(A) 通年 (B) 全国 (C) 2名	(D) 閲覧者 (E) 不特定多数	330
その他目的を達成するために必要な事業	NPO法人への理解促進に資する講演会	(A) 通年 (B) 山梨県内 (C) 13名	(D) 非営利活動に興味のある人 (E) のべ95名	274

# 決算報告書

(第1期)

自 2022年11月14日

至 2024年3月31日

特定非営利活動法人イエカラ

法人名：特定非営利活動法人イエカラ

活動計算書

2022年11月14日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		合計
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	240,000		
賛助会員受取会費	169,000		
サポーター会員受取会費	0		
2. 受取寄付金			
受取寄付金	2,100,367		
3. 受取助成金等			
受取国庫補助金・助成金	929,000		
受取民間補助金・助成金	0		
4. 事業収益			
自主事業収益	533,043		
アキヤマモリ事業収益	4,125		
国土交通省モデル事業	5,464,000		
第三の居場所事業収益	0		
受託事業収益	8,000		
5. その他収益			
受取利息	14		
雑収益	179,698		
経常収益計			9,627,247
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	2,505,000		
賃金手当	0		
人件費計		2,505,000	
(2) その他経費			
福利厚生費	700		
印刷製本費	50,006		
広告宣伝費	13,380		
売上原価	31,205		
業務委託費	2,915,400		
謝金	1,209,615		
会議費	134,406		
交際費	9,628		

旅費交通費	128,049		
車両費	269,680		
通信運搬費	234,015		
消耗品費	444,277		
修繕費	110,544		
地代家賃	162,190		
保険料	50,479		
諸会費	14,000		
租税公課	24,350		
研修費	112,540		
支払手数料	10,157		
新聞図書費	30,300		
雑費	103		
支払利息	118,863		
その他経費計		6,073,887	
事業費計		8,578,887	
2. 管理費			
（1）人件費			
人件費	0		
法定福利費	0		
人件費計			0
（2）その他経費			
交際費	873		
通信運搬費	13,546		
消耗品費	34,918		
保険料	1,740		
諸会費	10,000		
租税公課	4,050		
リース料	52,536		
その他経費計		117,663	
管理費計		117,663	
経常費用計			8,696,550
当期経常増減額			930,697
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産額			930,697
前期繰越正味財産額			0
次期繰越正味財産額			930,697



法人名：特定非営利活動法人イエカラ

貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,356,547		
未収金	50,000		
流動資産合計		6,406,547	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			6,406,547
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	5,460,000		
預り金	15,850		
流動負債合計		5,475,850	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,475,850
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		0	
当期正味財産増減額		6,406,547	
正味財産合計			930,697
負債及び正味財産合計			6,406,547

法人名：特定非営利活動法人イエカラ

財産目録

2024年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
預金	6,351,202		
現金	5,345		
未収金	50,000		
流動資産合計		6,406,547	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			6,406,547
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入	5,460,000		
預り金	15,850		
流動負債合計		5,475,850	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,475,850
正味財産合計			930,697

法人名：特定非営利活動法人イエカラ

損益計算書

2023年6月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		合計
I 経常収益			
1. 事業収益			
アキヤマモリ収益	4,125		
国土交通省モデル事業収益	5,464,000		
事業収益合計		5,468,125	
経常収益合計			5,468,125
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	2,505,000		
賃金手当	0		
人件費計	2,505,000		
(2) その他経費			
業務委託費	2,420,000		
謝金	439,098		
旅費交通費	64,410		
車両費	13,055		
租税公課	7,370		
支払手数料	7,665		
新聞図書費	7,860		
支払利息	80,688		
その他経費計	3,040,146		
事業費計		5,545,146	
経常費用計			5,545,146
当期経常増減額			△ 77,021
税引前当期正味財産増減額			△ 77,021
法人税、住民税及び事業税			0
当期純利益			△ 77,021

法人名：特定非営利活動法人イエカラ

### 財務諸表の注記

#### 1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

##### （1）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

#### 2. 借入金を増減内訳

借入金を増減は以下の通りです。

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入（山梨県民信用組合）	0	5,460,000	0	5,460,000

#### 3. 役員及び近親者との取引の内容

役員及び近親者との取引は以下の通りです。

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人等との取引
受取寄付金	2,100,367	800,000	0
給与手当	2,505,000	2,050,000	0